

「道の駅」第3ステージを体現する

～応援パッケージの取組～

令和8年10月3日
国土交通省道路局企画課評価室
竹下 正一

目次

1. 「道の駅」とは
2. 「道の駅」第3ステージ
3. 第3ステージを応援するための取組
4. 最近の「道の駅」の話題

1.「道の駅」とは

『道の駅』の経緯

- 1988(昭和63)年11月 新潟県豊栄市(現新潟市)で、建設省(当時)が一般国道に
初の道路情報ターミナルを備えたパーキングエリア整備
(後に道の駅「豊栄」として登録)
- 1990(平成2)年1月 中国地域づくり交流会シンポジウム(建設省中国地方建設局(当時)主催)



『道の駅』の経緯

1991(平成3)年10月～

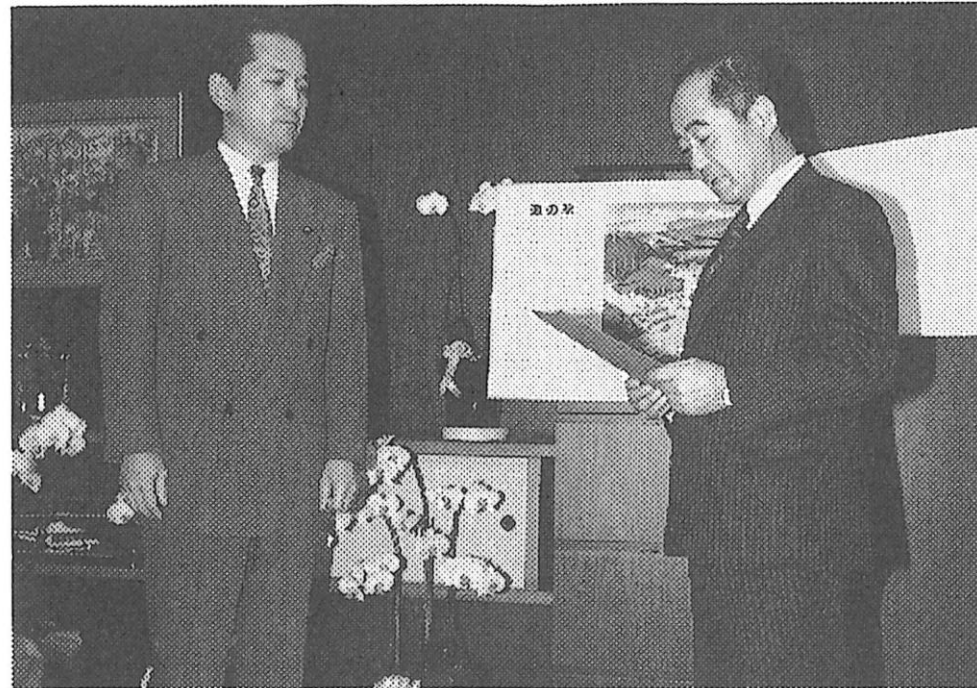
山口、岐阜、栃木県の全12箇所で、仮設の休憩・案内施設を利用し**社会実験**



『道の駅』の経緯

1992(平成4)年6月 道路審議会建議

1993(平成5)年1月 有識者懇談会「道の駅」に関する提言大臣報告



越正毅座長から中村建設大臣へ提言を報告(平成5年1月18日)

1993(平成5)年2月 「道の駅」登録・案内**制度を創設**

1993(平成5)年4月 第1回「道の駅」登録証が交付され**103駅が誕生**

道路審議会建議(平成4年6月22日)

(3) 快適な生活環境の創造

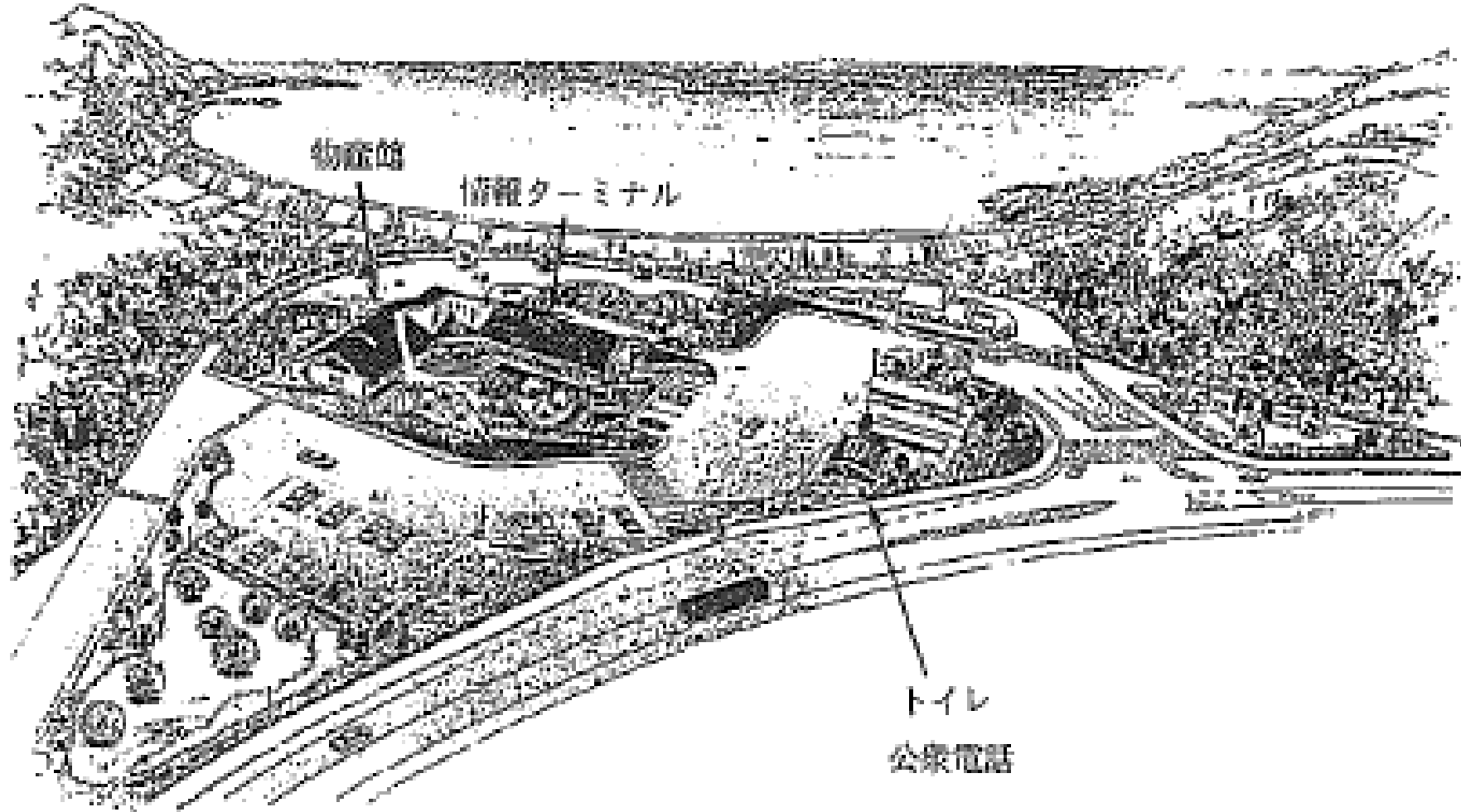
道路の主役は、人であるという認識が必要であり、そのような認識のもとで、人への優しさや、ゆとり、美しさといった質的な快適性についても、道路が備えるべき基本的な機能のひとつとしてその整備に努める必要がある。そのような観点から、誰もが歩きたくなるような歩道や一般道路における交流の核としての「道の駅」、美しさや歴史の感じられる道等個性的な道づくりを推進し、快適な生活環境の創造を図る。これらの事業の実施にあたっては、地域社会や道路利用者の参画を求めるなど事業の進め方についての工夫も必要である。

3) 快適な「ながれ」機能の充実とこれを支える「たまり」機能の充実
人や車の快適な「ながれ」を確保する観点から、今後とも歩道や道路のネットワークの充実強化が必要であるが、さらに例えば計画以上の交通量が流れたり、事故や工事等があっても部分的なボトルネックが生じないような余裕を持った道路構造とするなど道路構造の見直しも必要である。

その快適な「ながれ」を支えるとともに、人へのやさしさ、ゆとりの観点から、駐車や休憩あるいはにぎわいの場といった快適な「たまり」機能の充実が必要である。具体的には自動車利用者のための「たまり」空間として一般道路に休憩施設を計画的に設置する。その際、地域と連携し公共的団体が整備する地域振興施設と融合した「道の駅」として、地域振興と交流の核としつつサービスの高度化・多機能化を図る（図一35）。また歩行者のための「たまり」空間として、地域におけるコミュニティ空間、子供の遊び場等の生活空間としての歩道施設等の整備を図る。

道路審議会建議(平成4年6月22日)

図一35 道の駅イメージ図



注) 建設省資料による。

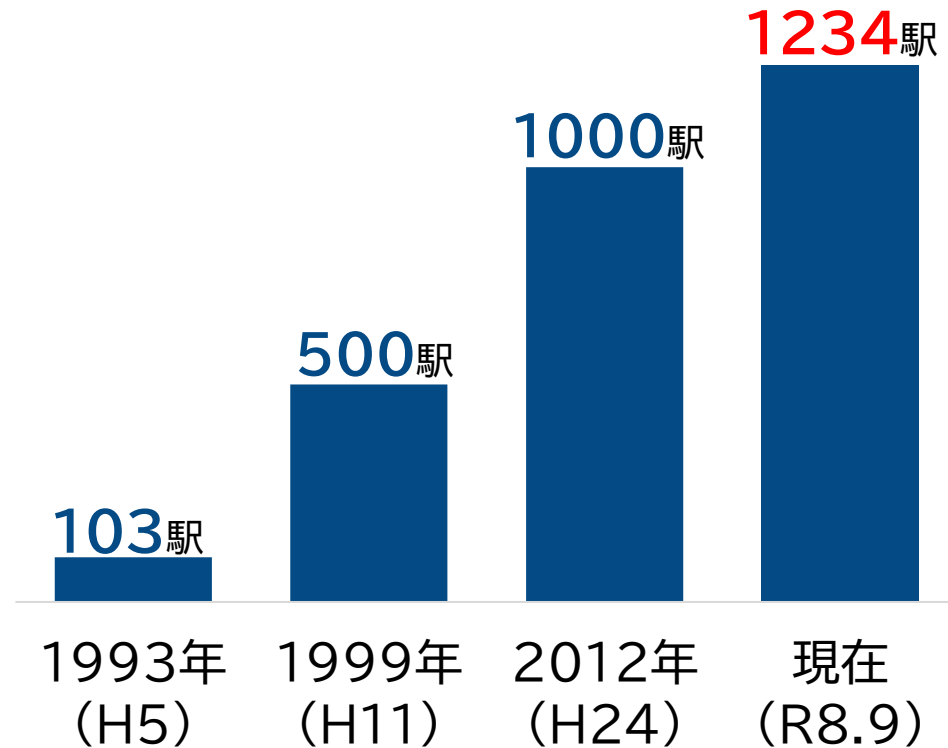
「道の駅」に関する提言(平成5年)

- ・「ながれ」を支える「たまり」機能
- ・安心と信頼の拠点
- ・道路利用者と地域の接点として交流の核
- ・熱意のある駅長を置くことが望まれる
- ・駅長には女性を積極的に登用する等も考えられる

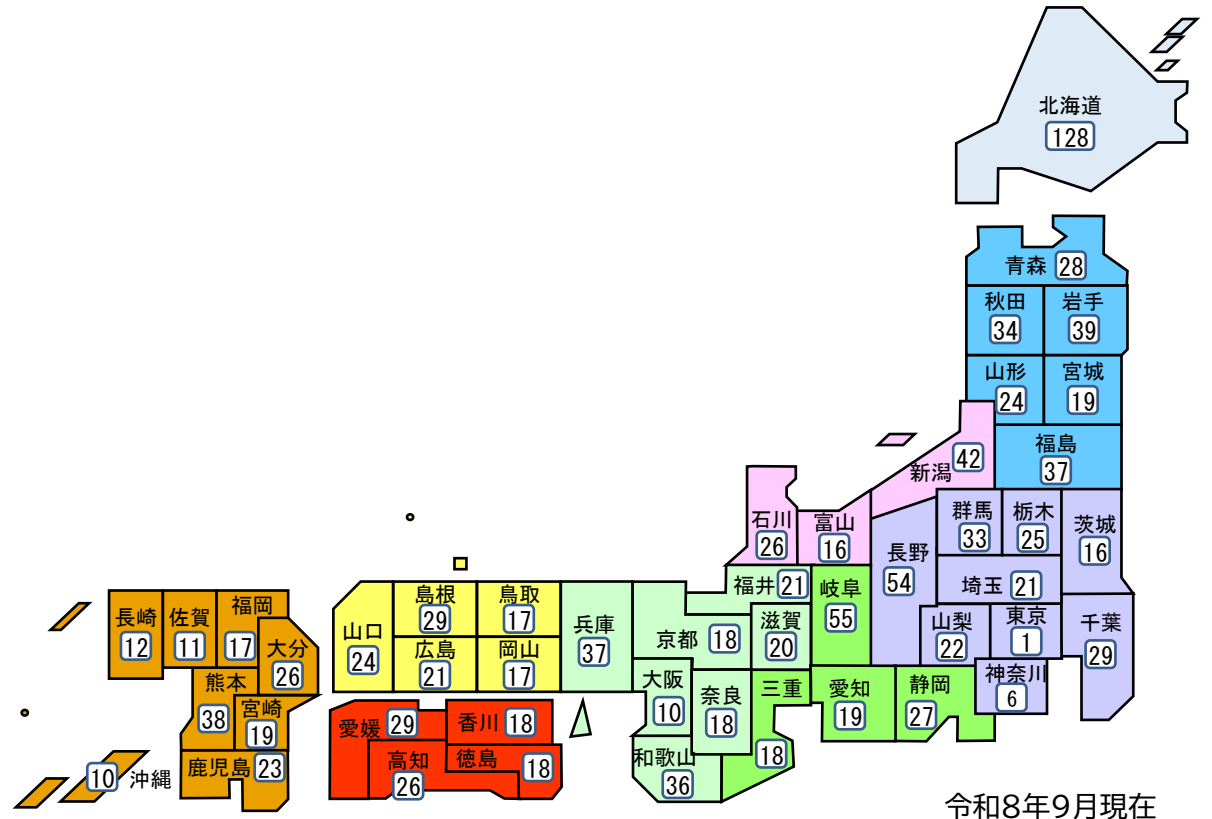
全国の「道の駅」

- ・平成5年(1993年)の制度創設から30年以上が経過
- ・すべての都道府県に道の駅が設置され、その数は全国1,234駅まで拡大

■「道の駅」登録数の推移



■都道府県別「道の駅」登録数



「道の駅」の目的と機能

「道の駅」は、1993年の制度創設以来、地域の創意工夫により特色ある駅が全国に展開

「道の駅」の目的

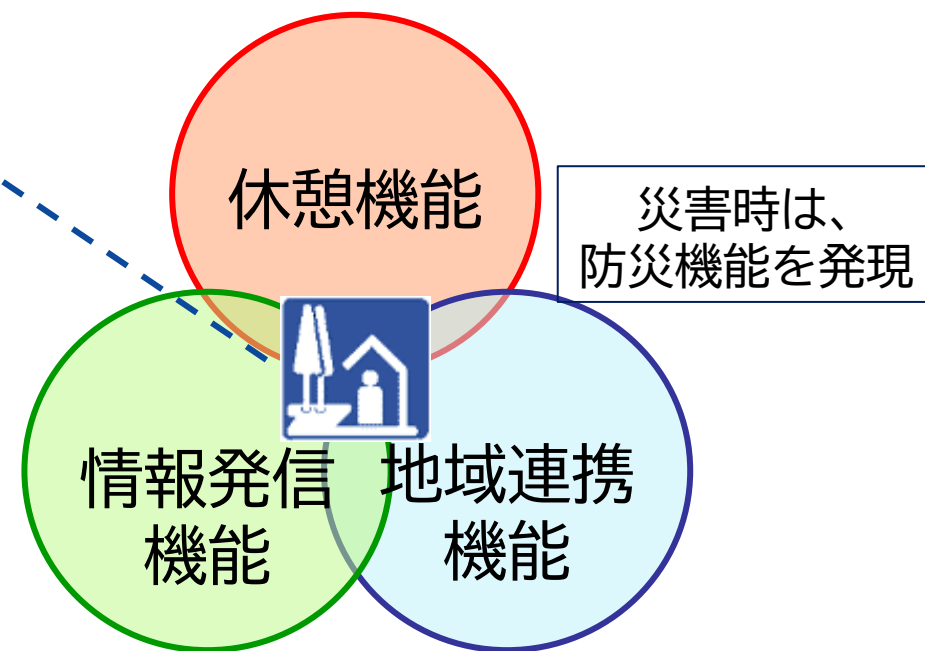
- 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- 地域の振興に寄与

「道の駅」の 基本コンセプト

「道の駅」の機能

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 休憩機能 | 24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ |
| 情報発信機能 | 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報
などを提供 |
| 地域連携機能 | 文化教養施設、観光レクリエーション施設
などの地域振興施設 |

地域とともに作る
個性豊かな
にぎわいの場



2.「道の駅」第3ステージ



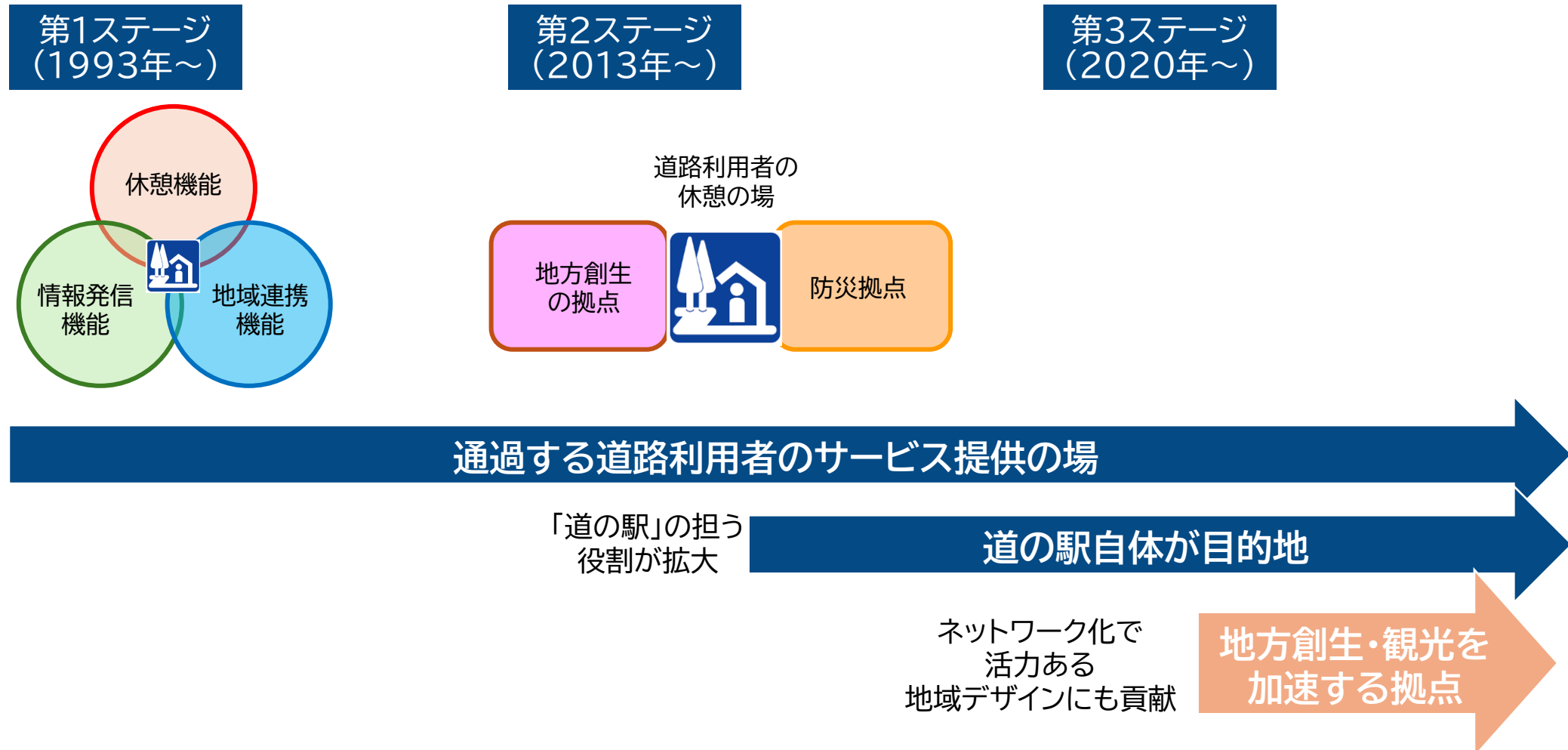
「とみうら」(千葉県南房総市)



「もてぎ」(栃木県茂木町)

「道の駅」のそれぞれのステージ

- ・ステージは切り替わるものではなく、また、上下関係にもない
- ・第1～第3ステージまで機能が拡張され、かつ高度化されているもの



第1ステージ
(1993年～)

第2ステージ
(2013年～)

第3ステージ
(2020年～)

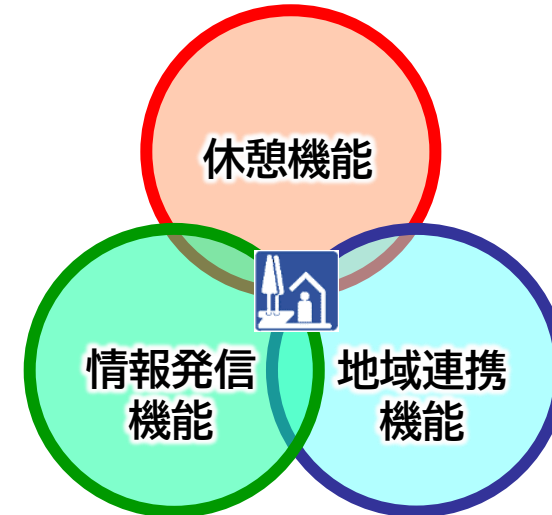
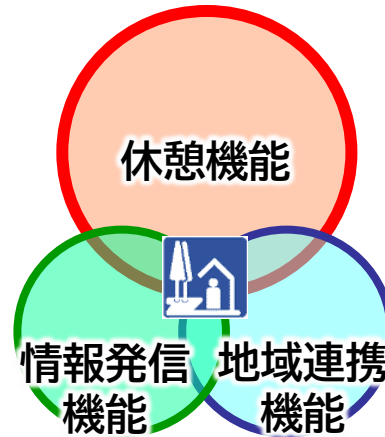
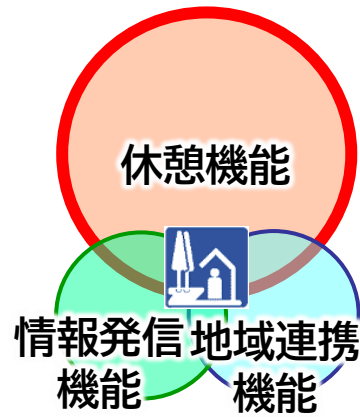
姿

通過する道路利用者の
サービス提供の場

道の駅自体が
目的地

まちづくりの拠点となり、
道の駅とまちが一体的に発展

機能

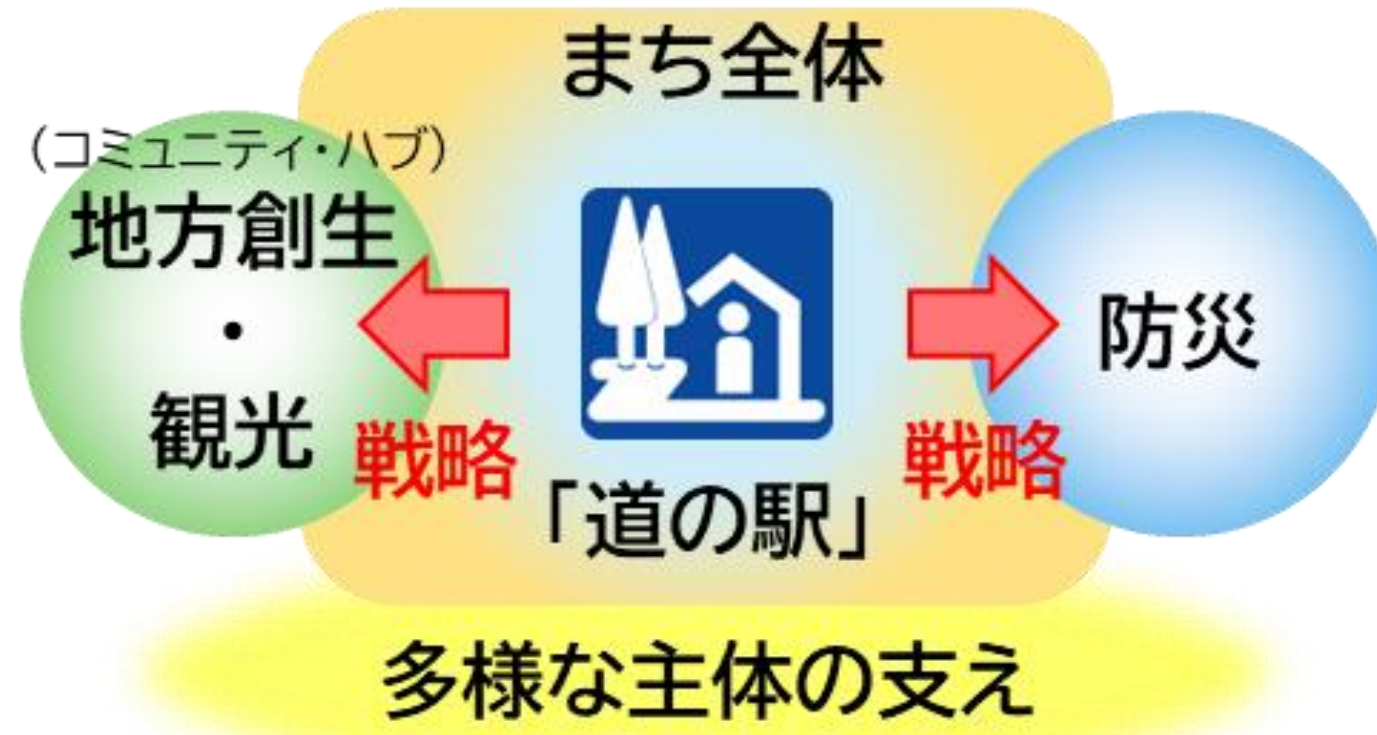


ターゲット



「道の駅」第3ステージ

「道の駅」単体から **まちぐるみ** の **戦略的** な取組へ

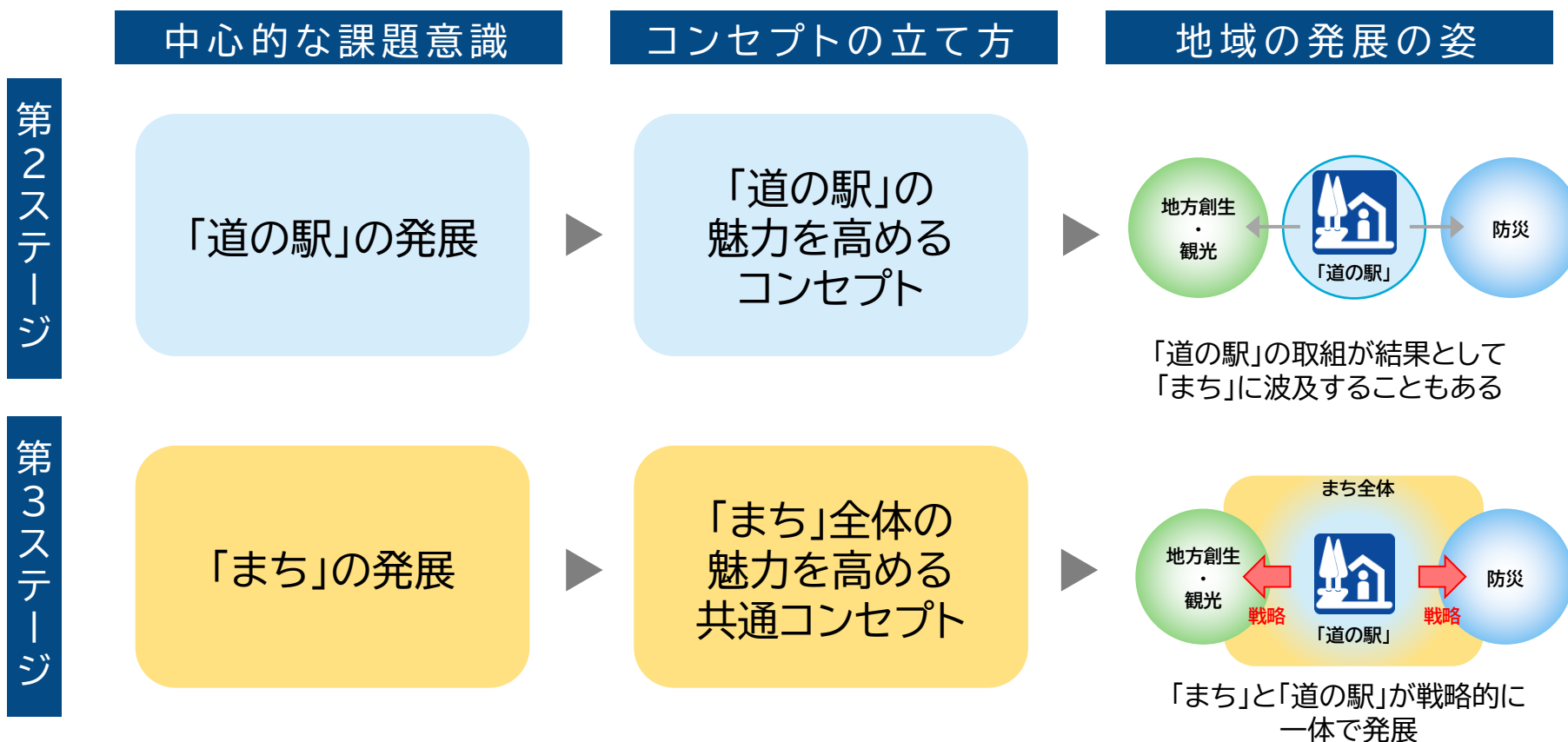


「道の駅」第3ステージとは

「まち」と「道の駅」が一体で戦略的に連携してコンセプトの実現を成し遂げる取組

第2ステージと第3ステージ

第2ステージは、「道の駅」を魅力的にすることで、結果として地方創生に導くアプローチである一方、
第3ステージは、「まち全体」でコンセプトを共有し、「まち」と「道の駅」が戦略的に一体で進める取組

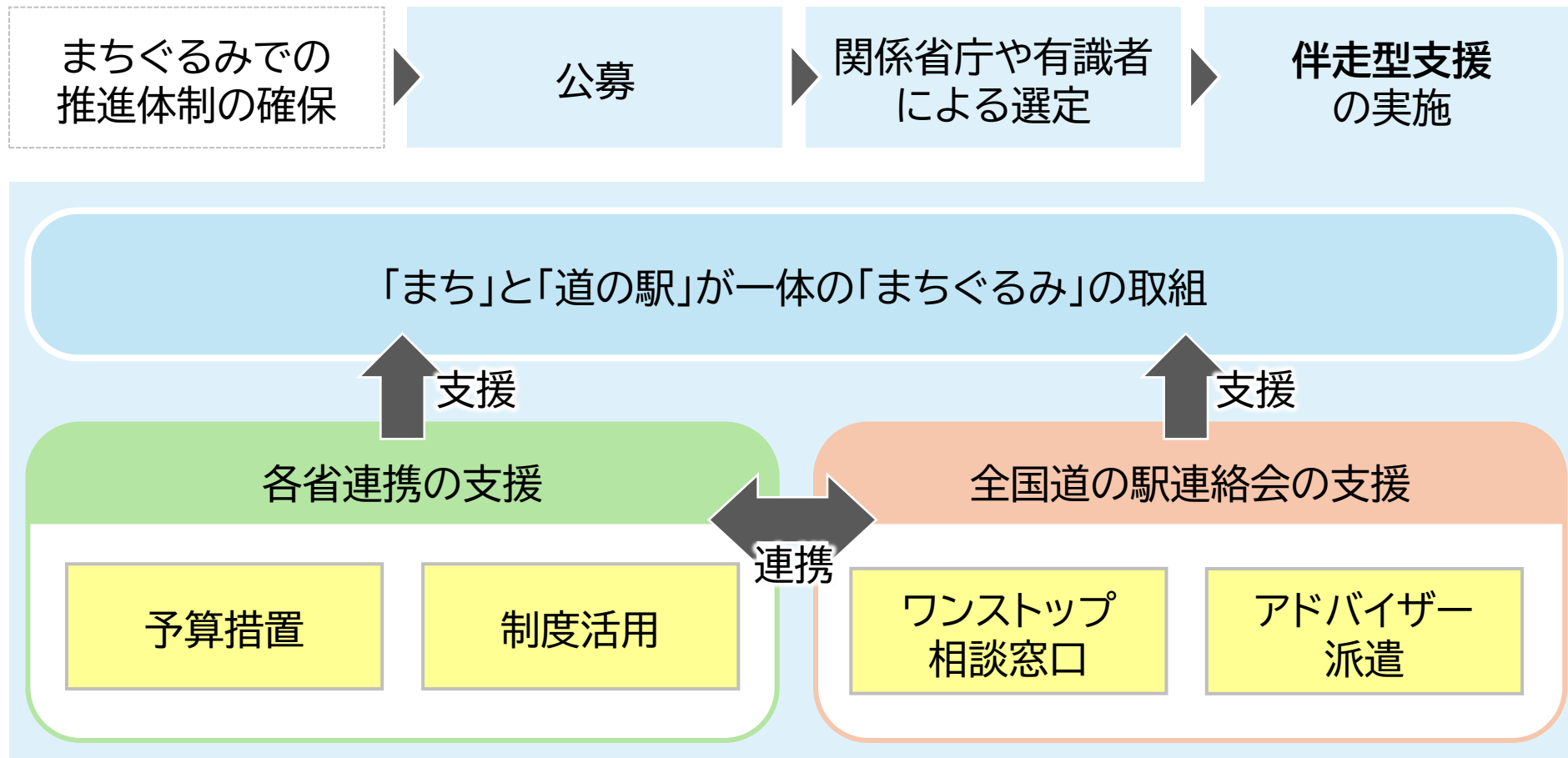


3. 第3ステージを応援するための取組

国による支援

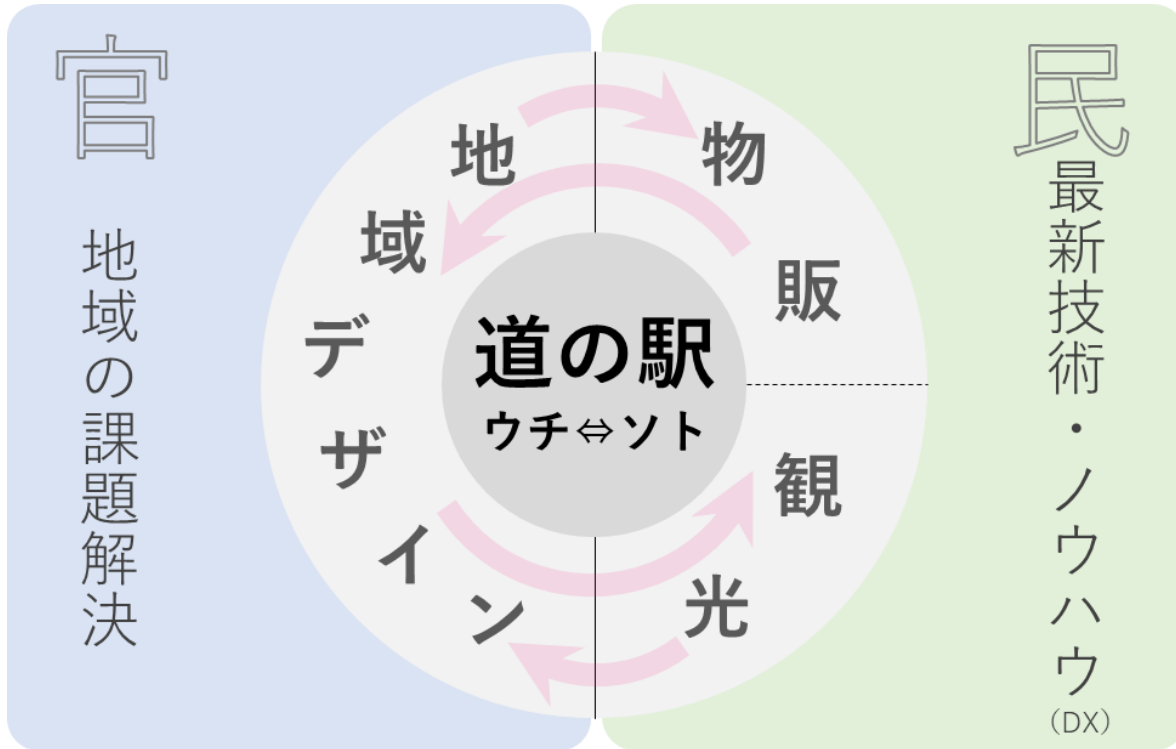
第3ステージのポイントである「まちぐるみの戦略的な取組」の実現に向けて取り組む自治体と「道の駅」に対し、関係省庁一丸での支援を推進するための制度を構築

国による支援の枠組みイメージ

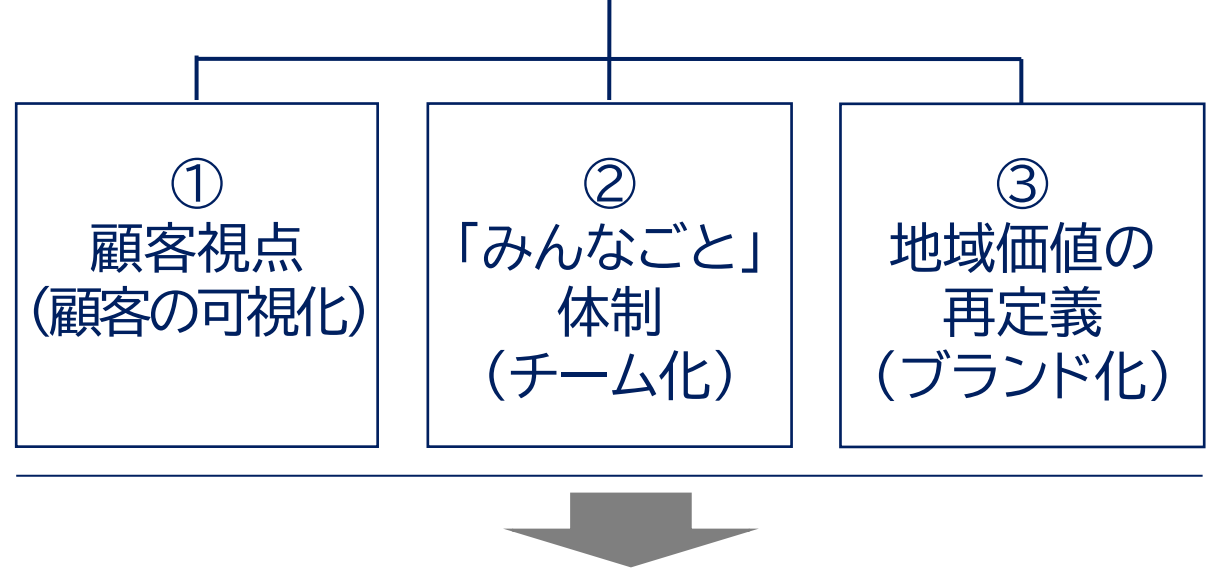


「道の駅」第3ステージ モデルプロジェクト

第3ステージのエッセンスを具現化するため、モデルプロジェクト(もてぎ、とみうら)で、その実現プロセスを検証(2022年度～)



第3ステージを目指す上で必要な要素

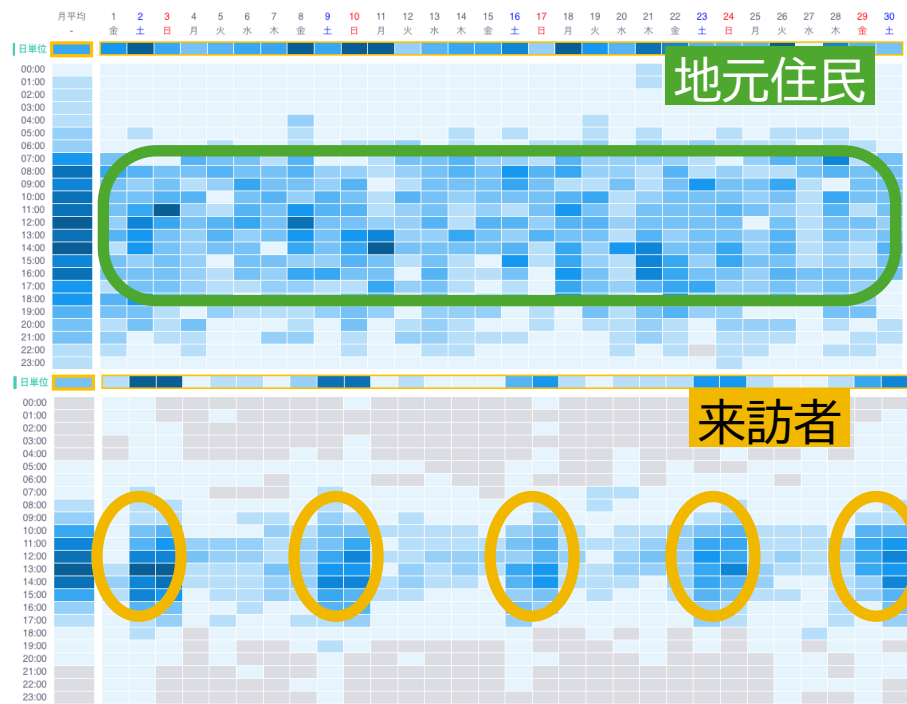


ICT・データの力を借りた顧客分析、
自治体×道の駅×住人による議論を経て、
地域の目指すコンセプトを策定

顧客視点のデータ分析 ～もてぎ～

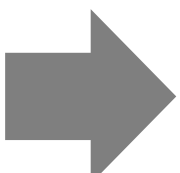
web検索データ・携帯電話位置情報を活用した本格的なマーケティング分析

日別・時間帯別の来訪データ



出典:Yahoo! DSインサイトデータ

主な
来訪時間帯



平日
朝～夕方



休日
昼



細やかなターゲティング
による販売戦略

顧客視点のデータ分析 ～とみうら～

POSデータにより消費者行動を分析し、生産者との協働でのマーケティングを展開

市内8つの「道の駅」のPOSデータ
の共通プラットフォームを構築



出荷量調整・作付計画に反映

データを
農家と共有



「みんなごと」体制(チーム化)

もてぎ



「道の駅」、町役場、茂木高校の生徒など
垣根を越えた議論



茂木町への移住相談窓口を
役場ではなく「道の駅」に設置
※リニューアルの中で検討中の案

とみうら



市内8つの「道の駅」一体で
南房総市としての戦略を議論



「道の駅」事業者・生産者・行政が一体で
進める総合加工場の新設

地域価値の再定義(ブランド化)

もてぎ



コンセプトを町ごとアップデート

とみうら

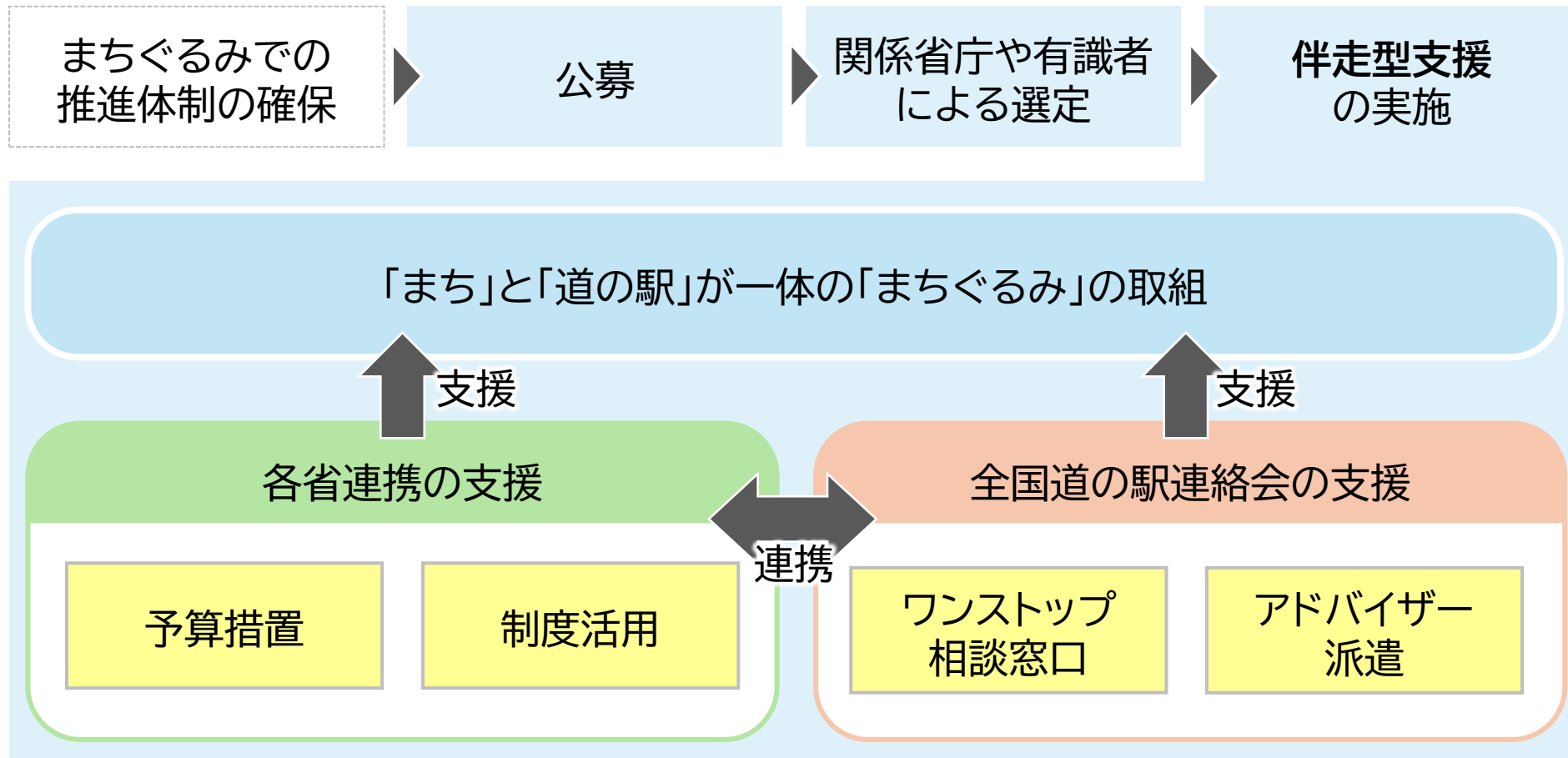


南房総エリアの「道の駅」をつなぐ
地域コンセプトを開発

「道の駅」第3ステージ応援パッケージ

第3ステージのポイントである「まちぐるみの戦略的な取組」の実現に向けて取り組む自治体と「道の駅」に対し、関係省庁一丸での支援を推進するための制度を構築

国による支援の枠組みイメージ



支援対象の駅



道の駅「もてぎ」(栃木県茂木町)

道の駅第3ステージの1つの形として、「茂木モデル」を構築中。リニューアル工事の中で具体化。

「茂木モデル」

まちぐるみで再定義したまちのコンセプトに基づいて、道の駅をまちづくりの拠点とし、道の駅とまちのつながりを可視化する取組

まちぐるみで再定義した茂木町のコンセプト

「しあわせの、
自給自足。」

- ・地域の人々の手で
- ・地域に存在するものを使って
- ・道の駅と町内外とのつながりを大事に
- ・まじめに、丁寧に、価値を創り出していく

道の駅をまちづくりの拠点にする仕組み

- 道の駅に「もてぎルーム」を設置し、コンセプトを具体化
- 地域の施設を道の駅内・付近に設置
(移住相談窓口、観光案内所、役場職員の常駐 等)

道の駅とまちのつながりを可視化する仕組み

- (仮)もてぎ コンセプトリンク
 - ・ コンセプトを体現した「もてぎルーム」と、コンセプトに沿った道の駅内外の取組(コアユニット)が、一体的であることを表現する仕組み

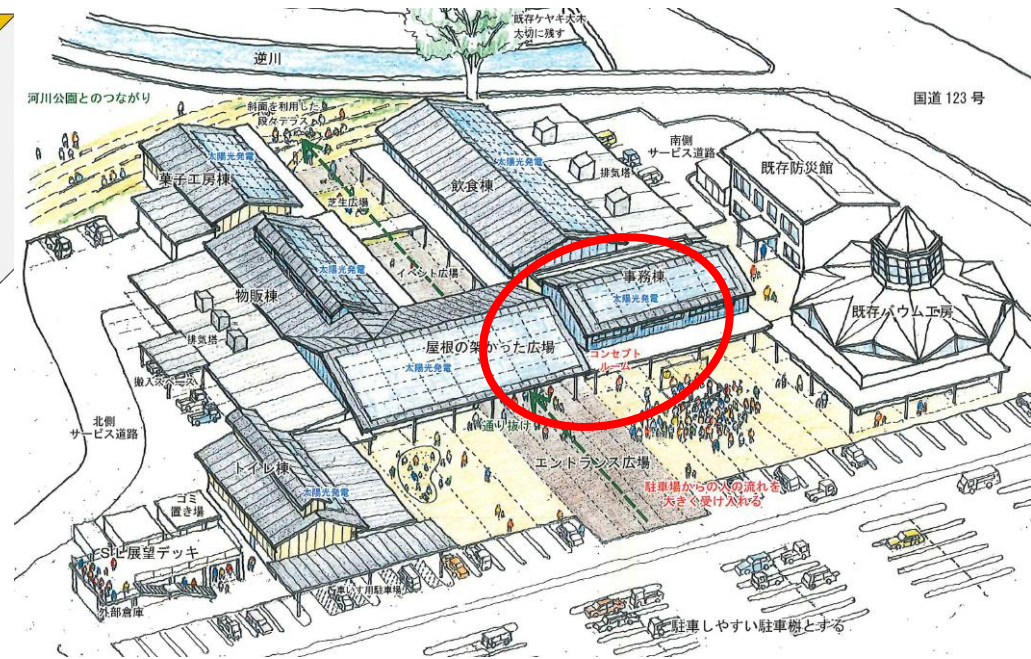
道の駅「もてぎ」(栃木県茂木町)

【道の駅をまちづくりの拠点にする仕組み】

- 茂木町のコンセプトを体現する「もてぎルーム」を、道の駅の中央に設置。
- 移住相談や観光案内所等の「地域の施設」を道の駅内・付近に設置。



象徴的なアイコン
のイメージ



※イメージ



移住コンシェルジュ

※ AI生成画像イメージ



役場職員が常駐

※AI生成画像イメージ



観光案内所



道の駅に隣接するホテル

道の駅「もてぎ」(栃木県茂木町)

【道の駅とまちのつながりを可視化する仕組み】

- コンセプトを体現した「もてぎルーム」と、コンセプトに沿った道の駅内外の取組(コアユニット)が、一体的であることを表現する仕組みとして、「(仮)もてぎ コンセプトリンク」を構築中。

【(仮)もてぎ コンセプトリンクの概要】

道の駅「もてぎルーム」のコンセプト

もてぎの歴史

茂木を襲った2つの危機



道の駅の誕生



しあわせの、自給自足。



道の駅内の「コアユニット」

売り場等に、ロゴマークに番号をつけたサインとキービジュアルを。回遊を促すとともに、場面ごとに楽しいメッセージと情報を打ち出す。

売り場にもロゴマークとキーカラーを用いたPOPを用意。季節や商品に合わせた手書きスペースも。



道の駅 象徴的なアイコン



道の駅外の「コアユニット」



まちの

課題

を解決する

文化
歴史 魅力

を感じる

道の駅へ

みんな

でつくる

4. 最近の「道の駅」の話題

令和8年熊本地震における「道の駅」の対応等

災害時における道の駅の活用

広域応急復旧活動の拠点

防災拠点自動車駐車場(道路法48条の29の2)に指定されている道の駅「たのうら」では、九州電力(株)との協定に基づく要請を踏まえ、電力の復旧活動を支援するため、駐車場の一部において道路法に基づき一般利用を制限※

※「防災拠点自動車駐車場」(国土交通大臣指定)では、災害時に道路法(48条の29の3)に基づき広域災害応急対策の拠点としての利用以外の一般利用の禁止・制限が可能



九州電力(株)の復旧班車両の利用状況



制限区域を示す標識の設置

令和8年熊本地震における「道の駅」の対応等

災害時における道の駅の活用

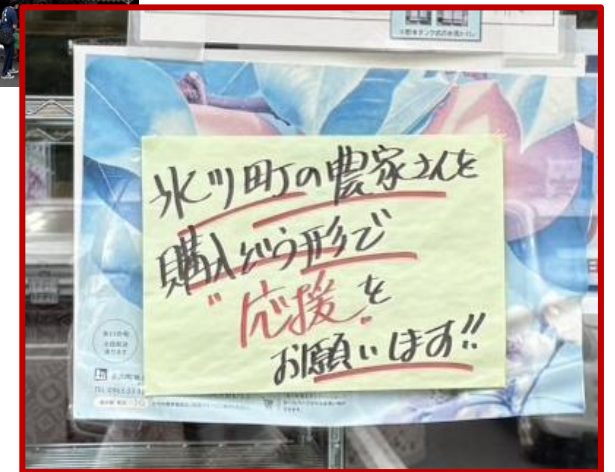
施設の早期復旧

被災した**駐車場等の施設を早期に復旧**

⇒ 休憩機能等の早期確保、地元生産者の販路確保に資する地域振興施設の営業再開を後押し



被災した駐車場の応急復旧(道の駅竜北(氷川町))



早期の営業再開(道の駅竜北(氷川町))

令和8年熊本地震における「道の駅」の対応等

道の駅による交易支援

防災用コンテナ型トイレの派遣

全国の道の駅に配備されている**防災用コンテナ型トイレ**※(水道や電源への接続が不要)をプッシュ型で被災地に広域派遣 ⇒被災地のニーズに沿ったトイレ環境の確保

※ 配備された道の駅が被災(断水・停電)した場合でも、トイレの継続利用が可能



防災用コンテナ型トイレの利用状況

国直轄の道路区域を有する道の駅のうち、
24駅にコンテナ型トイレを配備済み
⇒**15駅のコンテナ型トイレを被災地へ派遣**

道の駅・防災用コンテナ型トイレの派遣箇所図(令和8年熊本地震) 令和8年9月10日時点

宇城市(宇城市役所本庁:2台)



道の駅「滝宮」



道の駅「貞光ゆうゆう館」

氷川町屋内

ゲートボール駐車場

道の駅「みやま」(福岡県所有)

八代市(千丁コミュニティセンター)



道の駅「塩津海道あぢかまの里」

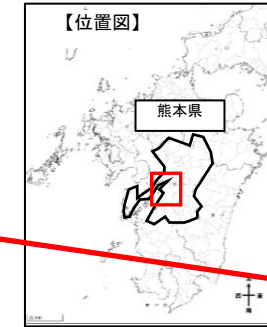
八代市(八代市鏡支所:2台)



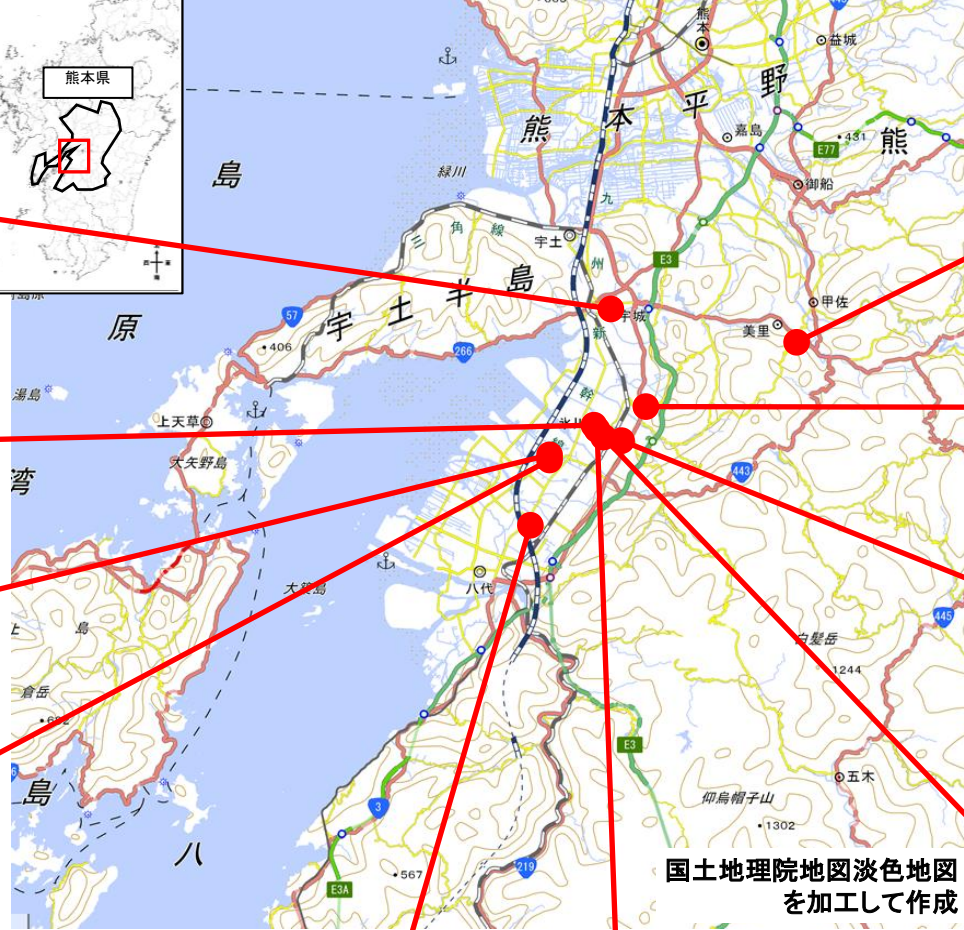
道の駅「うきは」



道の駅「但馬のまほろば」



【位置図】



国土地理院地図淡色地図
を加工して作成

八代市(千丁支所:2台)



道の駅「すさみ」



道の駅「針テラス」

氷川町(竜北中学校)



道の駅「都城NiQLL」

氷川町(竜北グラウンド:2台)



道の駅「あぐり窪川」



道の駅「掛合の里」

美里町(美里町カントリーパーク)



道の駅「ゆふいん」

宇城市(小川総合文化センター:2台)



道の駅「たるみずはまびら」



道の駅「天空の郷さんさん」

氷川町(道の駅竜北:2台)



道の駅「シーサイド高浜」



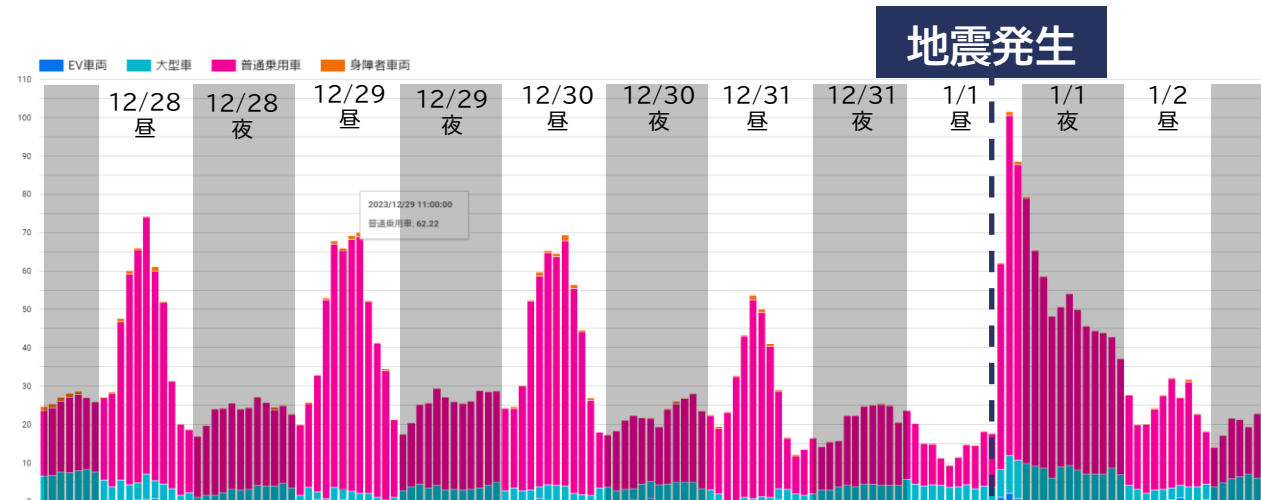
道の駅「和」

令和6年能登半島地震 道の駅への避難

能登半島地震では、発災直後より、周辺エリアより避難してきたと思われる車両の駐車場利用が見られた
⇒道の駅が、災害時の一時的な避難先と認識されている可能性も



地震発生前後の
道の駅「こまつ木場湯」
(石川県小松市)の
利用状況



AIカメラに
よる分析

資料作成協力:
ニューラルグループ株式会社

令和6年能登半島地震 物資輸送の拠点

にいがた下越駅長交流会や全国「道の駅」女性駅長会が中心になり、各駅の備蓄品を防災道の駅「あらい」(新潟県妙高市)に集積し、被災地の道の駅「のと里山空港」へ輸送

道の駅「のと里山空港」に届けられた支援物資



主な支援物資:水(ペットボトル)、非常食、トイレットペーパー、おむつ・生理用品、マスク、タオル、など

道の駅「あらい」に集積した支援物資の積み込み(1/8)



「防災道の駅」

主な役割

大規模災害時等の 広域的な防災拠点



- ・自衛隊、警察、テックフォース等の救援活動の拠点
- ・緊急物資等の基地機能
- ・復旧、復興活動の拠点等

地域の一時避難所



重点的な
支援（最大5年）



**広域的な防災拠点機能
を持つ道の駅**

「防災道の駅」のターゲット

**地域の防災拠点機能
を持つ道の駅**

その他の道の駅

全体1,234駅
(令和8.9.4時点)

ハード面

- ・防災機能の整備・強化を
交付金で重点支援

ソフト面

- ・BCPの策定や防災訓練
について国のノウハウを
活用した支援

キャッシュレス化

(一社)全国道の駅連絡会では、三井住友カード(SMCC)、NTTドコモ、KDDIと協働で、キャッシュレス決済推進事業を実施中

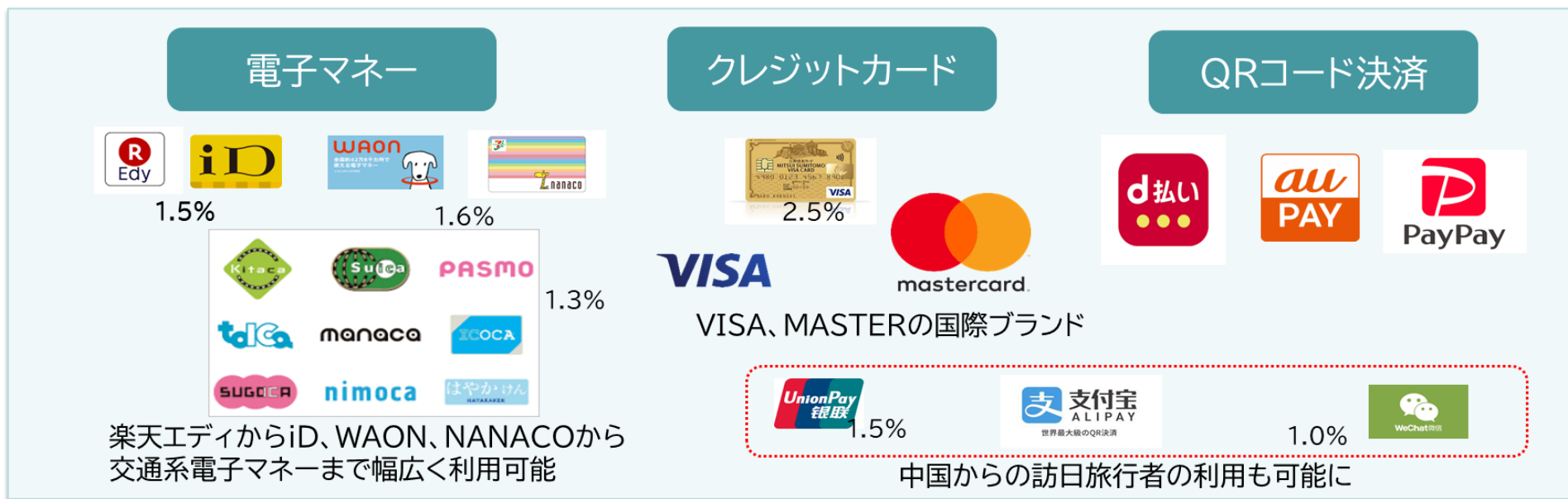
道の駅のキャッシュレス導入:87%(2026.4時点)

- キャッシュレスのための特別支援
 - ✓最新のオールイン決済端末:無償
 - ✓手数料率2.5%~(一般商品:VISA/Mastercard)
- 契約/導入は地元地銀様等が対応(アフターフォローも安心)



SMBC
三井住友カード

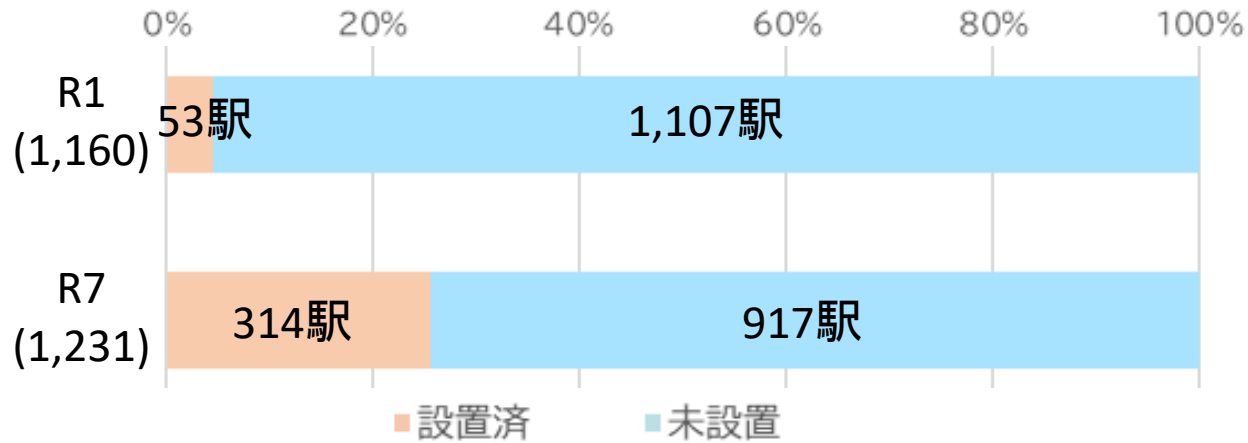
最新決済端末
(ステラ)



子育て応援

地域の子育てを応援する施設として、おむつ交換台や授乳室などの設置を推進

ベビーコーナーの設置(24時間利用可能)



(24時間利用に限定しない場合)



キッズルーム



道の駅「パレットピアおおの」

ベビーコーナー



道の駅「ふたつ」

多様なモビリティへの対応

モビリティハブとしての交通結節機能の役割を求められる「道の駅」も



自動運転バス運行ルート
サイクルポート

道の駅「さかい」と境町高速バスターミナルの結節



出典:茨城県境町HP <https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page002440.html>

「道の駅」の意義・特徴を意識

「道の駅」によるネットワーク

⇒役割・機能・スペックは多様でありつつも、
地域の振興に取り組む人・道の駅同士をつなぐ

「道の駅」という言葉の力

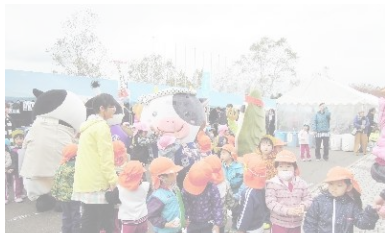
⇒来訪者等を地域(街)へつなぐ
“巡る”(スタンプラリー)、“訪れる”(目的地化、予定しない立ち寄り)を誘発

「道の駅」は行政が関与する施設

⇒災害時も含め、安心と信頼の拠点

などなど

道の駅が地域の発展に貢献する存在であり続けるための施策を推進



ご静聴ありがとうございました

